

山弓連

平成18年
2月発行

山梨県(甲府市)地域社会武道(弓道)
指導者研修会 受講レポート

受講生 菊池 敏彦

標記の研修会は山梨県弓道連盟としては初めてとなる事業であり、範教錬士会事務局が中心となって準備が進められ、平成17年12月3日(土)4日(日) 小瀬スポーツ公園武道館弓道場において34名の参加者を得て行われた。

講師は次の4名でした。

中央講師(主任講師)

高橋 範 範士八段

関根 村夫 範士八段

地元講師

秋山 照美 範士八段

中沢 利正 範士八段

研修会1日目は師走の寒さの中ではあるものの快晴無風のもとでスタート。受講生全員による一手坐射に対して、講師の先生方からいただいた講評の中にこの研修会の持つ意義が語られていたように思う。中沢講師からは、呼吸と動作とを呼応させることで射品・射格が伴い味わいのある射になることが語られ、秋山講師からは、入場から退場までの基本動作について全日本弓道連盟の決め事を守り、楷書できちんと日頃の稽古の時から行うことが求められた。さらに、関根講師からは、指導者としての有り様として、全弓連の決め事をしっかりと正しく指導して行くことの大切さと、会の充実(割り込みを十分に行うこと)及び跪坐の姿勢保持が要求された。最後に、高橋主任講師から、各動作における目づかいや、礼及び揖の動作に「心」を込めること、弓の強さに関すること等が指摘された。そして、「射手は売り手、審査員は買い手。買い手を唸らせるような射を、各自の個性を生かしながら造って欲しいこと」、「負けん気が上達の道。毎日たとえ10射でも20射でも引くこと」、指導者のあり方として「癖当たりを決して嘗めないこと」等が求められた。また、受講生同士、研修会で学んだメモを出し合い、そのまとめ役をつくって弓友に伝えて欲しい旨が語られた。いずれの先生方からも、日常の稽古においてとかく忘れがちな、ともすると雑になってしまいがちな細かい動作を大切に、心を込めることの重要性が異口同音に語られたのが印象的であり、改めて基礎基本を

しっかりと修得していくことの重要性を認識したところである。

午後の講話では、まず、高橋主任講師から、「礼記・射義」の解説がなされた。そのなかで、特に「礼(禮)」と「仁」についてとりあげ、「禮」については文字の成り立ちを紐解きながら、その意味するところが人としての行くべき道であること、「仁」は他人への思いやり、気遣いであり、人間関係における上下・親子・長幼のわきまをを示すものであることが述べられ、「礼記・射義」の教示するところをしっかりと理解し実践するようにして欲しいとまとめられた。ついで、関根講師からは、先生御自身が45歳から弓を始められ現在に至ったことが語られ、指導者として悪い習慣を身につけさせないようにすること及び無秩序な引き方をさせないこと、1本1本の矢を大切に射ること、また、体配をスムーズに行うための工夫の一つとして、道場の床の状況に合わせて足袋を変えてみることや、臍(ひかがみ)の伸ばし方等の教本からは学びとれない、細部にわたる要点についてお話をいただいた。

射技指導においては、審査の間合いで受講生が引くのに合わせ、講師の先生方から受講生一人一人に指導がなされ、それぞれ次のステップへのアドバイスをいただいた。特に、高橋主任講師は、寒さにも関わらず両肌を脱がれて、筋骨の使い方(肩胛骨の動き等)についてまさに身をもって御指導をくださった。

研修2日目は、あいにくの曇天で寒さが身にしむ天候であったが、研修の熱気で寒気を吹き飛ばすべく研修会が進んだ。まず、講師の先生方3人による一つの射礼のあと、受講生を2班に分け、第一射場で「持的射礼」、第二射場で「一つの射礼」の研修が行われた。射手相互の動作の呼応のタイミング・ポイントや、肌脱ぎ・肌入れ動作の要領、大前の位取りの大切さ、本座に下がった時も気を抜かず、きちんと膝を生かして跪坐の姿勢を保つこと等々、細部にわたってまさに「かゆいところに手の届く」指導をしていただいた。

午後は、まずはじめに、「繰立ち射礼」の稽古を行った。まず、受講生の代表が模範演武を行い、その演武に対する講評指導の形で、本座における上座への位置取り、射手相互の動作の間の合わせ方等についてポイント指導がなされた。ついで、受講生全員による研修がなされ、講師の先生方から要所要所の注意点について細かく御指導をいただいた。

ついで、射技指導に移り、昨日からの継続のなかで、各自の射技の向上と、今後の稽古の重点的に取

り組むべき課題について、受講生一人一人に講師の先生方から熱心に手取足取りの指導がなされた。

閉講式では、天野会長から受講生代表に「修了証」が手渡され、高橋主任講師からは、受講生全員の弓に取り組む姿勢と意欲に対してお褒めの言葉をいただくと共に、次なる向上にむけ、今回の研修会で得た課題に取り組み、上位の称号・段位にチャレンジして欲しいとのお言葉をいただいた。

最後に、受講生それぞれの顔に表れていた、取り組むべきことがしっかりとつかめた充実感と満足感、そして、講師の先生方に対する心からの敬意と感謝の気持ちが、この研修会の成功を示していたものであることを記して報告いたします。

第5回東日本高等学校弓道大会（福島大会）

期日 平成17年12月17～18日

場所 福島県郡川弓道場

昨年の12月17、18日2日間、福島県郡川市において、第5回東日本高等学校弓道大会が行われた。大会は一日目に5人制、二日目に3人制という日程で行われた。一日目の5人制では、普段の射が出来ず、思うような結果が得られなかった。二日目の3人制は、朝から雨が降り、風も強く、弓を引くには厳しい環境の中で行われた。予選は各学校とも的中が伸びなかったが、決勝トーナメントに入ると高い的中で接戦が多く、緊迫した試合が続いた。10中を割らないことを目標にし、自分のたちの射に集中することで、準優勝という成績を残すことができた。この大会で得たことを生かし、3月に行われる全国高等学校弓道選抜大会においても、よい成績が残せるようがんばっていききたいと思う。

<男子団体3人制>

準優勝 巨摩高校

(石川直樹、志村友哉、日下 祥、古屋隆之)

予選 12射9中 通過

1回戦 巨摩10-7 高岡工芸(富山)

2回戦 巨摩12-7 春日部東(埼玉)

準決勝 巨摩10-10 八戸工業(青森)

競射 3-2

決勝 巨摩 9-9 会津学鳳(福島)

競射 3-3

2-2

2-3

平成18年 山梨県弓道連盟 初射会

平成18年1月8日 晴れ 小瀬弓道場

記録的な最低気温の中、寒さにもめげず、大勢の山弓連会員の参加を得て開催されました。

まず、天野会長の国旗拝礼に続き、日本海側では記録的な豪雪の中、当山梨では弓が引ける幸せの中、年の始めの初射会が開催されることは喜ばしいことです、の挨拶をいただき、平成17年に昇段、昇格の披露があり、(教士授与・小林源治・深沢武重、芦沢茂幸)記念品が贈呈されました。

会長の矢渡しのあと、各支部による射礼が披露され、競射に移った。

競射成績(6射)

1位・上田靖人(5) 2位・西堀泰弘(4) 3位・佐野辰巳(4) 4位・森岡博文(4) 5位・土橋 亨(4) ()内は的中数、同中は競射による

高校3年生大会

平成18年2月18日(土) 晴れ 小瀬弓道場

昨年に引き続き高校3年生大会が、将来の山弓連の担い手になってくれることを期待して開催されました。開会式の中で、高校3年生の将来の可能性を期し、各支部長によるそれぞれの支部の特長、行事予定、支部入会の誘い、などの紹介されました。

参加人数・高校3年生 40名 一般 15名

まず、高校生、一般の順序で競射を行い、終了後午後より余興として、高校生のみ五色板割(10枚)を行いました。

成績(8射) 高校生のみ表彰

1位・高橋恭平(7) 2位・小宮山佳苗(6) 3位 深沢宏一(6) 4位・宮下貴仁(5) 5位・上村法昭(5) ()内は的中数・同中は競射による

五色・小宮山佳苗・横田裕史・堀内 怜・保坂友美・佐藤嘉彦・水野 真・湯舟慧太・五味光博・高木聖也・鈴木裕介

閉会式において、天野会長の高校3年生に贈る言葉として、将来も弓道を続けて行く場合には是非守ってもらいたいと、「礼記・射義」を引用して「礼」についての訓辭をいただき、3年生も肝に銘じ、将来の弓道修練に向けての意義をくみ取ったことと思います。

また、感動した場面があり、是非書き留めておきたいことがあります。五色板割りの余興の中で、巨摩高校の深沢有紀選手が、筈こぼれをしました。その実に模範となる矢の処理は、天野会長から拍手を送られる、法にかなった矢の処理です。落ちた矢の方に足を寄せ跪坐し矢を取り射位にもどり、恐縮の意を表し、揖をして退場しました。高校生らしいその真摯の態度に感動しました。

「編集後記・17年度最後の会報です、1年間ありがとうございました」